

平成 22 年 5 月 10 日現在

研究種目：基盤研究（c）  
研究期間：2007～2010  
課題番号：19510267  
研究課題名（和文） 近代日本の兵士の男性性構築のジェンダー・ポリティクスと  
＜女性＞のエージェンシー  
研究課題名（英文） Agency of gender politics of soldiered man character  
construction of modern Japan and < woman >  
研究代表者  
海妻 径子 (KAIZUMA KEIKO)  
岩手大学・人文社会科学部・准教授  
研究者番号：10422065

研究代表者の専門分野：複合新領域  
科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー  
キーワード：女性学・男性学

## 1. 研究計画の概要

近代日本の男性性構築過程における＜女性＞のエージェンシーのありようを、特にそれが、＜国家＞が有したエージェンシーとの間でどのような対立と共謀＝ポリティクスを生み出したのかに着目しつつ、把握する。より具体的な研究課題としては、男性性構築過程における＜女性＞のエージェンシーを、

- (1) 都市新中間層を中心とし、近代家族的価値観を形成しつつあった女性、
- (2) 女性工場労働者および農業女性、
- (3) 植民地事業への何らかの参画者であった女性、

という3属性の女性のエージェンシーの複合体としてとらえ、それぞれの属性の女性にひろく読まれていたと考えられるメディア（雑誌、新聞、修養読み物など）の分析を行い、そこにみられる男性性言説を収集する。そしてその男性性言説がどのような＜女性＞の利害の上に要請され、構築されていったのかを分析する。

## 2. 研究の進捗状況

上記(1)～(3)の各＜女性＞の男性性言説分析の、研究進捗状況は以下の通りである。

- (1) に関しては平成19年度から20年度にかけて、『愛国婦人』などの女性向け雑誌分析を行いつつ、『サラリーマン』などの男性向け雑誌の内容と比較検

討を行い、都市男性の男性性構築においてミソジニーがもつ役割を明らかにした。

- (2) に関しては、当初平成20年度以降着手する予定であったが、予定していた先行研究に関する文献資料の入手に時間がかかることが判明したため、本格的な着手は平成22年度以降に延期した。

- (3) に関しては、平成20年度から21年度にかけて着手し、『拓け満蒙』などの開拓プロバガンダ雑誌の分析を行い、内地都市と植民地という地理的・社会的条件の違いをふまえつつ、比較検討を行った。その結果、農村女性の男性性言説において、「家庭」の「明るさ」という概念が、男性性構築に重要な役割をもっていることや、「開拓」というものが農村の男性性に与えた影響の大きさ、さらには農村の男性性言説にみられる「家庭」イデオロギーを、都市中間層に発したモダニズムの農村への単純な波及としてとらえるのではなく、都市中間層の男性性言説のもつ「家庭」イデオロギーでは説明できない側面に着目して、複数の対抗的男性性の構築プロセスとしてとらえる必要があること、などの点を明らかにした。

以上の他に、植民地事業と男性性構築に関する海外の研究成果を、イギリスにおける男性性研究を中心に収集し、理論的深化を行った。

### 3. 現在までの達成度

#### ②おおむね順調に進展している (理由)

当初予定していた雑誌等メディアの収集と、それに対する一次分析、およびそれらに対する考察を深めるための男性性研究理論に関する海外の研究成果の収集は、着手の順序に一部変更が生じたものの、おおむね予定通りのタイムスケジュールで進行している。分析作業に追われて、論文等の成果公開にやや遅れがみられ、当初予定していた成果公開回数より少ない状況はあるので、「当初の計画以上の進展」とはいえないが、おおむね順調な進展であるにとらえて差し支えないと判断した。

### 4. 今後の研究の推進方策

これまで十分に展開することができなかった女性工場労働者の男性性言説に対する分析に着手し、

- (1) 女性工場労働者に関するジェンダー・アプローチにもとづいた先行研究の検討、
- (2) 女性工場労働者の男性性言説を収集する対象雑誌・メディアの選定、
- (3) 具体的な男性性言説の収集と分析、を行う。

また最終年度にあたる平成22年度は、これまでの研究成果の整理と発表を行うべく、学会発表・学術雑誌投稿などの、成果公開を行う。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ① 海妻径子、父性 (ジェンダーをめぐるキーワード)、ジェンダー史学、第3号、65-68頁、2007、査読無

[学会発表] (計1件)

- ① 海妻径子、日本の男性性研究・運動の課題とは何か ―フェミニズム・スタディーズの立場から― 日本文化人類学会、2007年6月2日、名古屋大学

[図書] (計1件)

- ① 海妻径子、フェミニズムは男性身体を語るか ―男性身体の周縁化・抵抗の規律化・流動化、2008、49-68

[産業財産権]

- 出願状況 (計0件)
- 取得状況 (計0件)

[その他]

なし